

## 和漢薬研究所の概要（研究部門と各分野の研究目的）

2004年12月現在

部門・附属センター・寄付部門	研究分野と研究目的
<p><b>1. 資源開発研究部門</b> <b>Department of Medicinal Resources</b></p> <p>教授 小松かつ子 教授 門田 重利 教授 服部 征雄 助教授 手塚 康弘 助教授 横澤 隆子 助手 山路 誠一 助手 Suresh Awale 助手 宮代 博継 助手 中村 憲夫</p>	<p><b>生薬資源科学分野：Pharmacognosy</b> 薬用生物および伝統薬物の調査とそれらの遺伝学的、生薬学的、成分化学的、薬理学的多様性の解析を行う。遺伝子多型に基づく和漢薬の同定法を開発する。</p> <p><b>化学応用分野：Natural Products Chemistry</b> 和漢薬及びそれに関連する動植物の生理活性成分の分離、構造解析を行うとともに、それらの有効成分の化学的合成法を開発研究し、さらに化学構造と生理活性との相関関係を究明する。</p> <p><b>薬物代謝工学分野：Metabolic Engineering</b> 和漢薬の薬効発現に関与する腸内細菌およびその遺伝子の解明。抗エイズ、抗C型肝炎ウイルス薬の開発研究。担子菌類の薬効評価。腎疾患における病態の解明と腎臓病治療薬の開発。</p>
<p><b>2. 病態制御研究部門</b> <b>Department of Bioscience</b></p> <p>教授 松本欣三 教授 濟木育夫 教授 門脇 真 (客) 教授 奥山治美 助教授 櫻井宏明 助手 東田道久 助手 小泉桂一 助手 村上孝寿 助手 山本 武</p>	<p><b>複合薬物薬理学分野：Medicinal Pharmacology</b> 和漢薬の薬効に関する計量薬理学的な評価およびその作用機序と作用本体の解明を行うとともに、和漢薬が薬効を発現する生体病態を解析する。</p> <p><b>病態生化学分野：Pathogenic Biochemistry</b> 和漢薬効果に対応する体質（遺伝的要因）ならびに病態に対する和漢薬の効果を遺伝学、生化学、分子生物学ならびに免疫学など多面的に解析する。</p> <p><b>消化管生理学分野：Gastrointestinal Pathophysiology</b> 消化管疾患、特に腸管免疫性疾患の病因および病態形成機序を解明し、それに基づき和漢薬等を含めた新規治療薬の創出を目指す。</p> <p><b>恒常性機能解析分野（客員）：Analysis of Homeostasis</b> 菜種油に含まれる脂溶性微量有害成分にはネズミの寿命を短縮する物質があるが、その成分は未だ同定されていない。そこでその成分を検索する。</p>
<p><b>3. 臨床科学研究部門</b> <b>Department of Clinical Science</b></p> <p>教授 浜崎智仁 助教授 渡辺志朗 助手 長澤哲郎</p>	<p><b>臨床利用分野：Clinical Application</b> 天然薬物（特に魚油中のEPA, DHA）の作用機序の解明とその臨床利用。</p>
<p><b>4. 附属薬効解析センター</b></p> <p>センター長 小松かつ子(併任) 助手 東田千尋 (客) 教授 Abdul Md. Gafur (客) 助教授 Piyal Arunashantha Marasinghe</p>	<p><b>Research Center for Ethnomedicines</b> 民族薬物資料館に保管される生薬についてデータベースを構築し、それらの薬物の品質並びに薬効に関する研究を通じて世界の民族薬の標準化を図る。</p>
<p><b>5. 漢方診断学部門（寄）</b></p> <p>(寄) 教授 柴原直利 (寄) 助教授 後藤博三 (寄) 助教授 酒井伸也 (寄) 助手 中川 孝子</p>	<p><b>Kampo Diagnostics</b> 経験が重視される漢方医学固有の診断体系を基礎的および臨床的研究により客観化するとともに普遍的な教育カリキュラムを確立する。</p>
<p><b>6. 和漢薬製剤開発部門（寄）</b></p> <p>(寄) 教授 谿 忠人 (寄) 助手 何 菊秀</p>	<p><b>Kampo-pharmaceutics</b> 和漢薬資源とその製剤を開発する基礎研究と漢方医療情報研究を通して地域連携研究と県民の健康福祉に貢献する。</p>

(客)：客員；(寄)：寄付部門